



ポスト3.11 高校生未来プロジェクト ～「学び」がボクらを、社会を変える～

＜最終報告＞

【CONTENTS】



- Chapter_01 目的
- Chapter_02 企画概要（場所、人数、プログラム）
- Chapter_03 当日のプログラム、高校生の様子
- Chapter_04 高校生の変化、先生方の声
- Chapter_05 資料

- Chapter_06 アンケート概要
- Chapter_07 分析①生徒の生活・学習・勉強に影響はあったのか？（変容分析）
- Chapter_08 分析②学びの意欲は持続したのか？（3ヶ月後、6ヶ月後比較）
- Chapter_09 分析③男女で意欲・行動に差はあったのか？（男女別分析）
- Chapter_10 荻谷先生のコメント
- Chapter_11 最終総括

2013.11 ベネッセ教育総合研究所 「高校生未来プロジェクト」事務局

仮説: 社会貢献意識 × 学びの意味 = 学習意欲↑↑↑

低水準にとどまる、高校生の「学びの意欲」

勉強の意味を見つけられず、「勉強しようという気持ちがわからない」高校生は約6割*

「将来の進路は大学進学後に考える」という高校生が約5割*

* 資料編参照



- ・高校時代に「なりたい職業」を決めて勉強や大学進学への意欲を高める
「自己実現モデル」の限界
- ・「社会に貢献したい」という意欲はあるが、それが学びへの意欲や具体的な行動に結びついていないジレンマ。。。



仮説

高校・大学での「学び」が社会への貢献に役立つことが実感出来れば、
高校生の学ぶ意欲が高まるのではないか

その一方で、3.11以降に「社会貢献意識」UP

東日本大震災後、社会に貢献したいという気持ちが強まった高校生が約3割*

同様に、ボランティアへの関心が高まったという高校生も約3割*

* 資料編参照



5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223

224

225

226

227

228

229

230

231

232

233

234

235

236

237

238

239

240

241

242

243

244

245

246

247

248

249

250

251

252

253

254

255

256

257

258

259

260

261

262

263

264

265

266

267

268

269

270

271

272

273

274

275

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

286

287

288

289

290

291

292

293

294

295

296

297

298

299

300

301

302

303

304

305

306

307

308

309

310

311

312

313

314

315

316

317

318

319

320

321

322

323

324

325

326

327

328

329

330

331

332

333

334

335

336

337

338

339

高校生が「学ぶ目的」について 徹底して考えるワークショップを企画！

高校生に、社会と「学び」とのつながりを実感してもらうために、以下の概要でワークショップを企画。学ぶ意欲の向上に対し、有効に機能するのかを検証する。事前・事後検証も実施。

ポスト3.11 高校生未来プロジェクト ～「学び」がボクらを、社会を変える～

主催	ベネッセ教育研究開発センター「高校生未来プロジェクト」（ベネッセ教育研究開発センター 有志11名）
企画協力	オックスフォード大学教授／元東京大学教授 荏谷剛彦先生
運営協力	(株)スコラ・コンサルト／ハタモク代表 與良昌浩氏 One&Only代表／ハタモク副代表 生田早智江氏
期間	2012年12月26日(水)～27日(木) 1泊2日
会場	東京大学本郷キャンパス内 福武ラーニングスタジオ(東京都文京区)
宿泊	東京セントラルユースホステル(東京都新宿区)
募集人数	約30名(全国から公募 学年は問わず、日本国内の高等学校、およびそれに準ずる学校に在籍する生徒を広く募集)
募集方法	ベネッセ教育研究開発センターWEBサイト内に特設申し込みページを設置。作文課題の内容により審査。 <u>受付期間</u> : 2012年10月7日～11月11日 <u>作文課題</u> : あなたはこれからどんなことを、どのように学びたいと思いますか？ 将来の社会貢献とのつながりや、自分が大切にしている価値観を踏まえて、今の考えを書いて下さい。(800字程度)
参加費	無料 ※宿泊費、開催中の食事代含む。現地までの交通費は規定に基づき一定額を補助

募集 結果

募集期間約1ヶ月で、全国から100名を超える応募。
厳正な審査の結果、34名(男子13名、女子21名)の参加が決定。

互いを知り、社会人、大学生、大学教授と「学び」について語り合う。 次第に広がる「学び」の価値。

12/26(水) スケジュール

12:30	参加者集合
13:00	ワークショップ開始（イントロダクション）
13:20	チェック・イン
13:35	4人グループにて自己紹介、参加の理由、期待などを共有
13:35	ジブンガタリ① 個人ワーク・ペアワーク＝自身が大切にしている価値観共有
14:00	ジブンガタリ② 「高校での勉強」「大学での学問」「社会貢献」「未来・将来の自分」について、気になっていることを付箋に記入 ⇒次のセッションのテーマへ
15:05	テーマ別セッション テーマに基づき、対話⇒発表（1人2テーマに挑戦）
16:30	苅谷先生による大学の講義体験 「学問と社会とのつながり」
18:00	大学生・社会人とのセッション 「学問・勉強と今」
19:00	夕食 大学生・社会人とお弁当を食べながら対話
20:00	終了 (事務連絡、ユースホステルへ移動)



高校生1人ひとりが主役となって「学び」を語る。 「半年後の自分への手紙」に決意を託す！

12/27(木) スケジュール

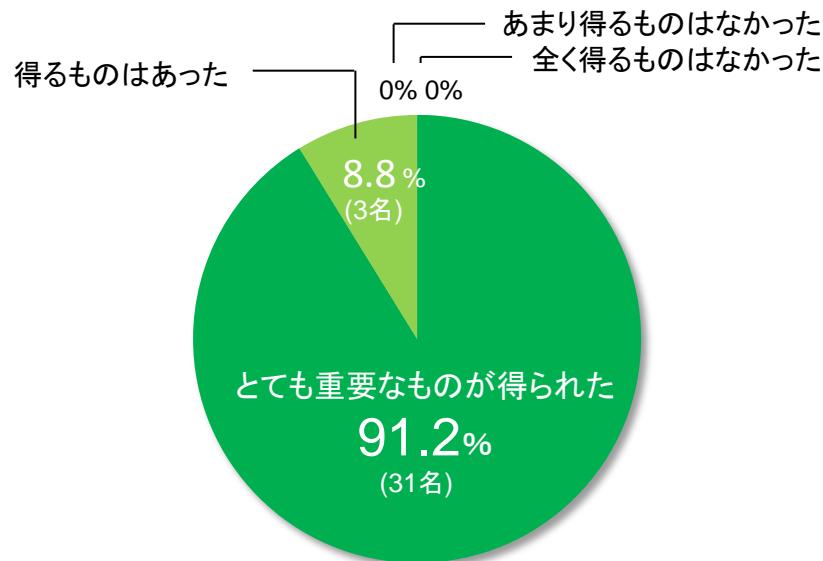
9:30	チェックイン 一人一言「今の正直な気持ち」「今日の期待」
9:35 9:55	ワールドカフェ(ディスカッション) ラウンド① テーマ:「どのような社会を実現したいですか?」「どんな風に社会や周りの人の役に立っていきたいですか?」
10:00 10:20	ワールドカフェ(ディスカッション) ラウンド② テーマ:ラウンド①と同じ
10:20 10:35	ハーベスト(全体発表)
10:45 11:10	ワールドカフェ(ディスカッション) ラウンド③ テーマ:「大学での“学問”的意味・価値とは?」
11:15 11:40	ワールドカフェ(ディスカッション) ラウンド④ テーマ:「高校での“勉強”的意味・価値とは?」
11:40 12:00	ハーベスト(全体発表)
12:00 13:00	ワーキング・ランチ (東大学食でランチ)
13:40 14:00	半年後の自分への手紙 (将来への思い、学びへの意識)
14:00 14:30	チェック・アウト 一人一言 「感想・気づき」「自分にとっての『学び』」
14:30 14:45	まとめ



2日間のワークショップで、ほとんどの参加者が、 学びに対する思いや、大学で学びたいことを捉え直した！

参考) ワークショップ終了後のアンケートより

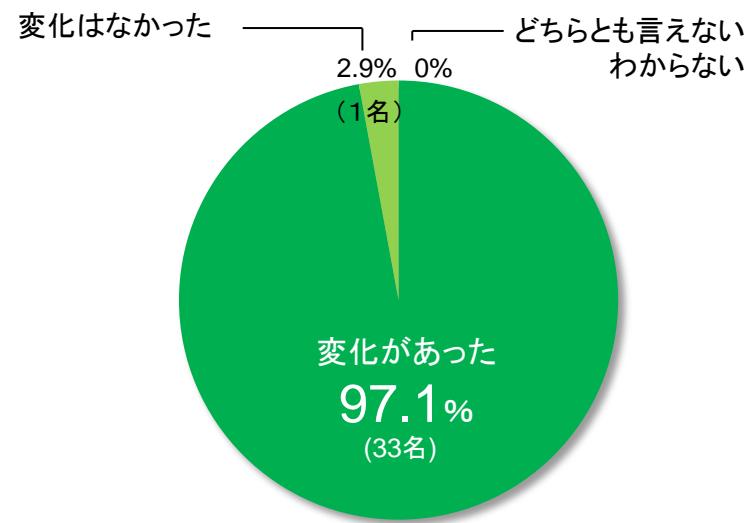
2日間のワークショップを通して、
何か得られるものはありましたか？



どのようなことを得たか、具体的に教えて下さい

夢・目標・やりたいことの変化・確信／学ぶことの意味・重要性／自己の再認識／知識の浅さ／議論・対話の大切さ／色々な意見・価値観をシェアすることの大切さ／新しい友人・仲間etc

2日間のワークショップを通して、学びに対する思
いや、大学で学びたいことに変化はありましたか？



どのような変化か具体的に教えて下さい

学ぶ意味を見いだせた／前向きになった・自分で考えて行
動できるようになった／みんなから刺激を受け、中途半端
ではいけないと思った／知識がないことは恥ずかしいと
思った／常識を突き詰めることが大切だと思ったetc

ワークショップを経て変化した、 高校生たちの「学び」への思い(1)

今回のワークショップを経て、高校生にはどのような変化が起きたのでしょうか？アンケートの記載内容やワークショップ中のインタビューから見えた変化を、いくつかご紹介します。

高校での学びに対してポジティブな感情を持つようになった！

1年男子 Aさん

参加前

学校で教えられることはその大半が実用性に欠けるものであるのかもしれません、そうした無意味に思えるものほど、私達の思考力を高めるのだと私は思います。

様々な分野を学ぶことにより、多面的な物の見方・考え方が養われるのではないかと思うか。ただ、「多くを学ぶ」ということは勉強が不足していれば単なる「知識の詰め込み」で終わってしまうということです。そうならないよう、地道に勉強し続けようと思います。

ワークショップ1日目

勉強がつまらないのではなく、勉強をつまらないと思っている自分が一番つまらない！

「学ぶ」ということは、問題解決に必要な共通認識を得るために“作法”であって、そうした型を身に付けることで学問の道は開かれる。

明日は、今日気付いたことを深め、より自分の心に定着させられるようにしたい。そしてより多くの人と話をして、今回のワークショップを今後に活かしていきたい。

ワークショップ2日目

高校での勉強は「様々な問題を解決するために必要な抽象的思考を培うための準備」に過ぎない。

これまで高校での学びに対して、全くポジティブな感情を抱いていませんでしたが、今回の2日間のワークショップを通じて、かえってポジティブな感情だけを抱くようになりました。大学で学びたいことに変化はありませんでしたが、学ぶ際には常に問題意識を持つよう心掛けたい。



参加前の事前アンケート、ワークショップ中に作成したワークシート等より

ワークショップを経て変化した、 高校生たちの「学び」への思い(2)

「高校の勉強はセンター試験のため」→「たくさんの可能性を導き出すため」

2年女子 Bさん

参加前

高校で学ぶ事のほとんどが将来の生活では直接必要なことばかり。それでも勉強をする理由はただ一つで「センター試験で必要だから」。しかしそれで終わるのではなく、センター試験は将来に繋がって行く。

結局は将来のために勉強をするのです。将来のためだけではアバウトすぎるので、私はセンター試験で良い点を取ることが今高校で学ぶ意味だと思っています。

ワークショップ1日目

こんなにもみんなの価値観が違うなんて思わなかつた！想像以上にみんなの答えがしっかりしていて驚いた。

ずっと頭を使っていたので、とっても疲れて、頭がいろんな意味でモヤモヤしています。

もっと深くみんなと話したい。みんな初対面で、お互いを尊重しすぎているんじゃないかと思ったので、もっと意見をぶつけ合っていけたら楽しいはず！

ワークショップ2日目

自分の考え方ばかりを主張するんじゃなくて、人の考え方にも耳を傾けて、自分の中でも気付ける・考え直せるようになりました。

みんなまっすぐに未来の事を考えている。自分も中途半端じゃいけない！



自分の望む夢にもたくさんの方法や道がある。明日からは、もっとたくさんの人と会って、もっと視野を広げていきたい。たくさんの可能性を導き出してきたい！

高校の勉強の価値について、改めて考え直したり、これから学びに向けて、自分を変えていくこうとする姿が多く見られました。

参加前の事前アンケート、ワークショップ中に作成したワークシート等より

先生方は、ワークショップの手法を授業に活かせる手ごたえ。 生徒たちには「思い」を「行動」に変えるためのフォローが必要！

今回のワークショップには高校の先生方も見学に来て下さいました。頂いたご感想をいくつか紹介します。

「場を与えることで確実に子どもたちは成長する」ことを改めて痛感した2日間でした。学力や志望進路に関わらず、どの高校生でも、精いっぱい未来を見て、生きようとしているのだと思います。

現場でこのような場をどれだけ提供できているか、子どもたちの未来に対する思い、学びに対する思いをどれだけ引き出し、お互いに高め合う場を作ることができるか？ その課題を学校へ持ち帰り、これから実践につなげていこうと思います。

A先生
(鳥取県)



実は、今回のようなワークショップを、これまでにはどこか否定しているところがあり、授業の中に取り入れることにも躊躇していました。

しかし、目の前で生徒たちの互いの関係性が深まり、表情やワークシートへの記入内容が変化している瞬間に立ち会うことで、自分の考えは間違っていたと実感しました。価値観が大きく変わったと思います。

自分の地域でもこうした場の提供を考えていきたいと思います。

B先生
(北海道)



地方の教育だけしか知らない生徒に「大きな海」を見せた上で、どのように地域に貢献できるようにするのか？ という問題意識を持って参加しましたが、大変有意義な2日間になりました。高校生の熱い思いに触れ、新鮮な思いです。

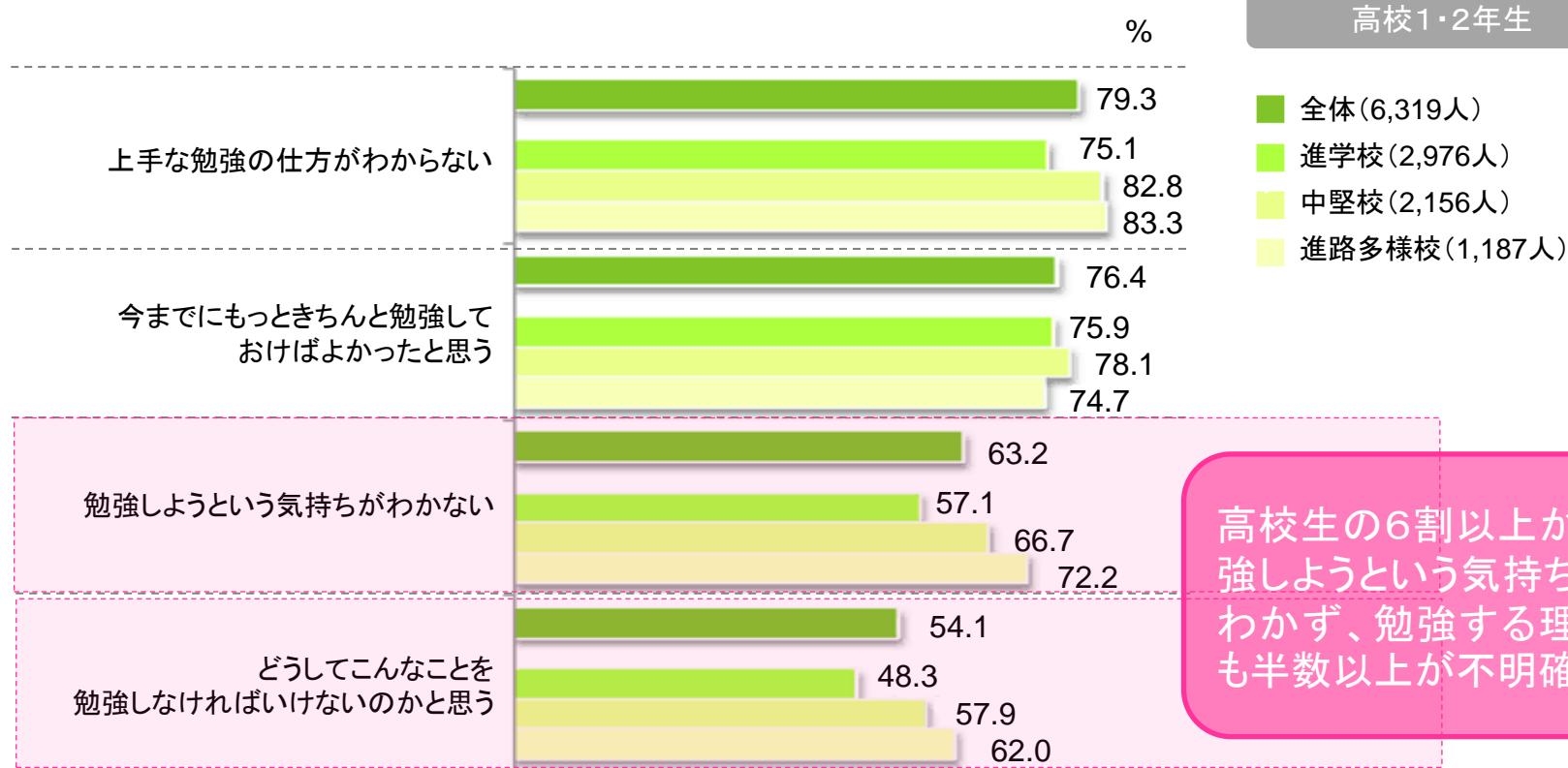
しかし、私の経験上、多くの生徒は1ヶ月も経つと、今回の経験を「良い思い出」として完結させてしまいます。実際に行動を起こしてもらうためにも、今後のフォローや、日常に飲み込まれないための仕掛けをどのように行うかが大切だと感じました。

C先生
(三重県)



学習意欲が低い日本の高校生

あなたは勉強の取り組み方について、次のようなことがあてはまりますか？



注1)「とてもそう」+「まあそう」の%

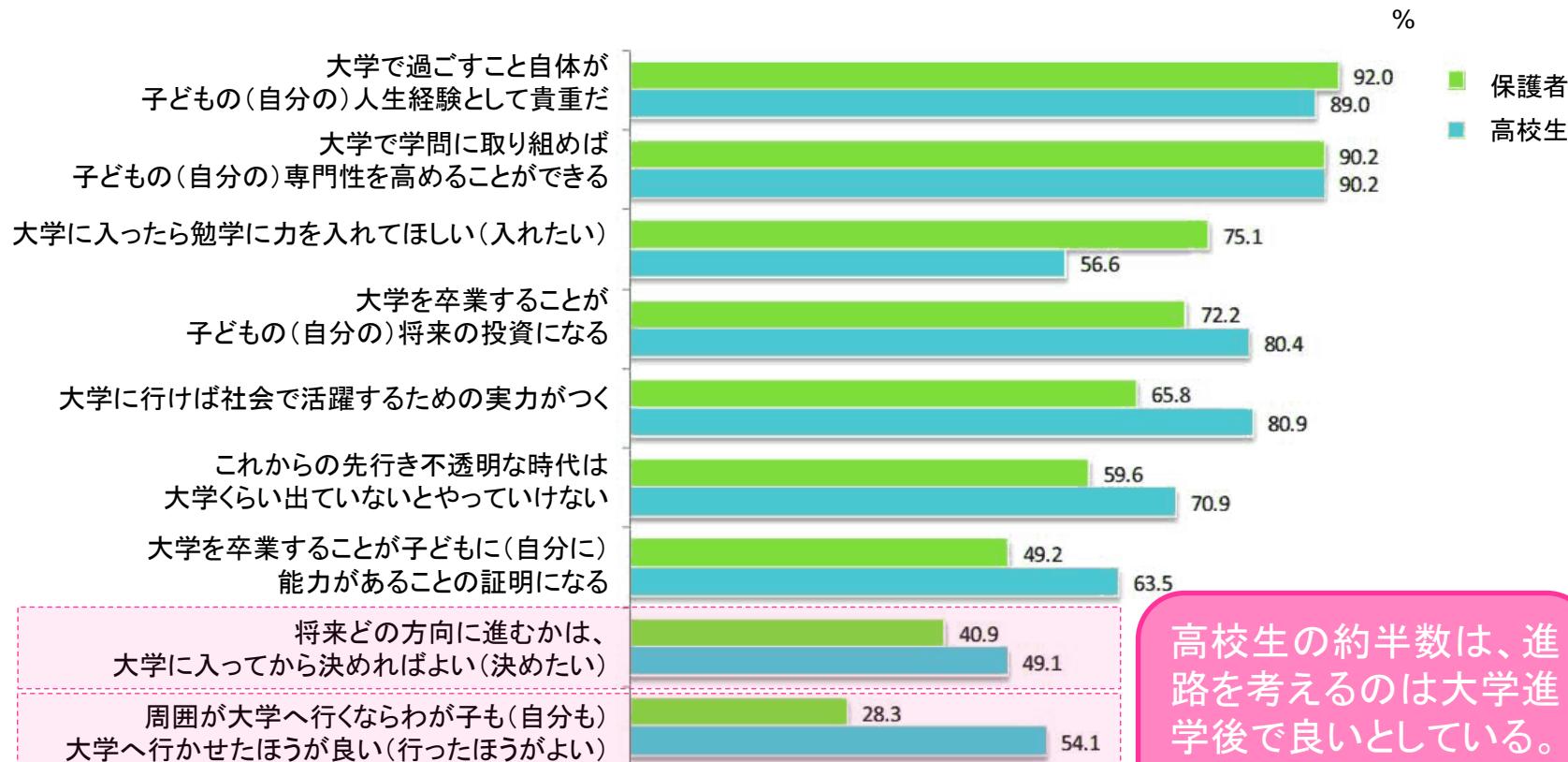
注2)「進学校」は偏差値60以上目安、「中堅校」は偏差値50-59目安、「進路多様校」は偏差値50未満目安

出典:ベネッセ教育研究開発センター「第2回 子ども生活実態基本調査」(2009年8-10月調査)

http://benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009/index.html

職業選択については、大学進学後の先送り傾向

大学進学に対する意識 高校生とその保護者の意識ギャップ



注1)「とてもそう」+「まあそう」の%

注2)()内は高校生に対する選択肢

高校生の約半数は、進路を考えるのは大学進学後で良いとしている。また、まわりに流されて進学する傾向も強い。

出典:ベネッセ教育研究開発センター「高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査」(2011年9月 インターネット調査)

http://benesse.jp/berd/aboutus/katsudou/pdf/pre_28.pdf

震災後高まった、高校生の社会貢献意識やボランティア意識

2011年3月11日に発生した東日本大震災から約半年が経ちますが、あなたはこの度の震災の影響による変化として、次のようなことがどれくらいあてはまりますか？

お互いに助け合って生きることの大切さを強く感じるようになった

どんな厳しい状況でも生き抜く力が必要だと思うようになった

いまをしっかり生きることの大切さを強く感じるようになった

家族や友人など、身近な人の大切さを感じるようになった

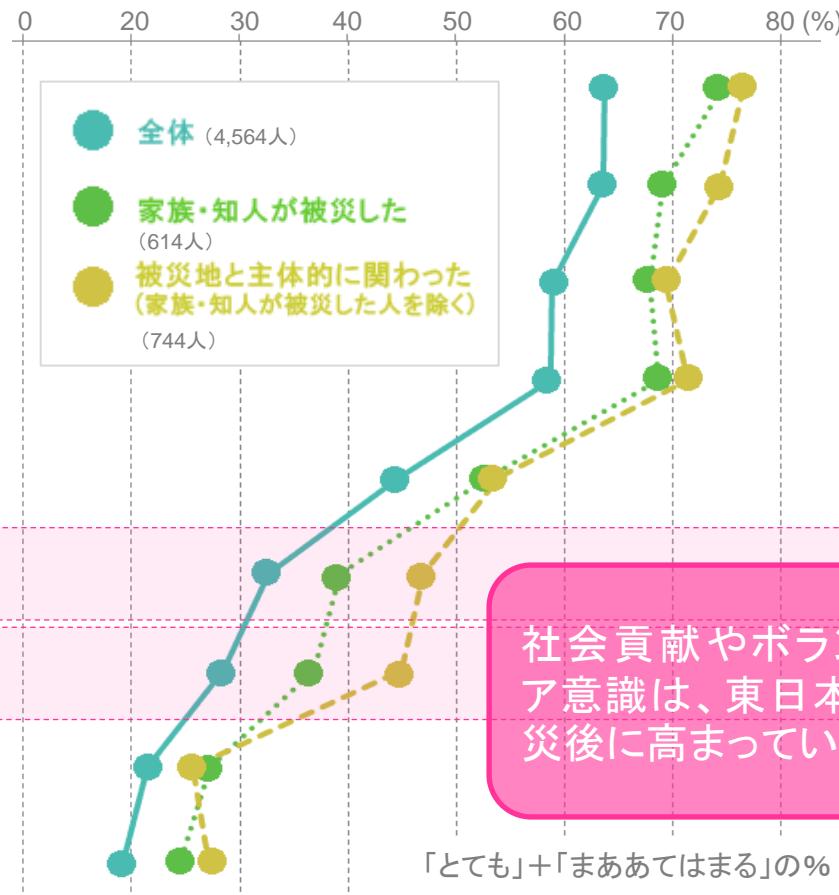
日本人の生き方や、社会のあり方を変えていく必要を感じるようになった

社会に貢献したいという気持ちが強まった

ボランティアに対する関心が高まった（実際に参加した場合を含む）

将来も親とともに暮らすことが大事だと思うようになった

地元に貢献したいという気持ちが強まった

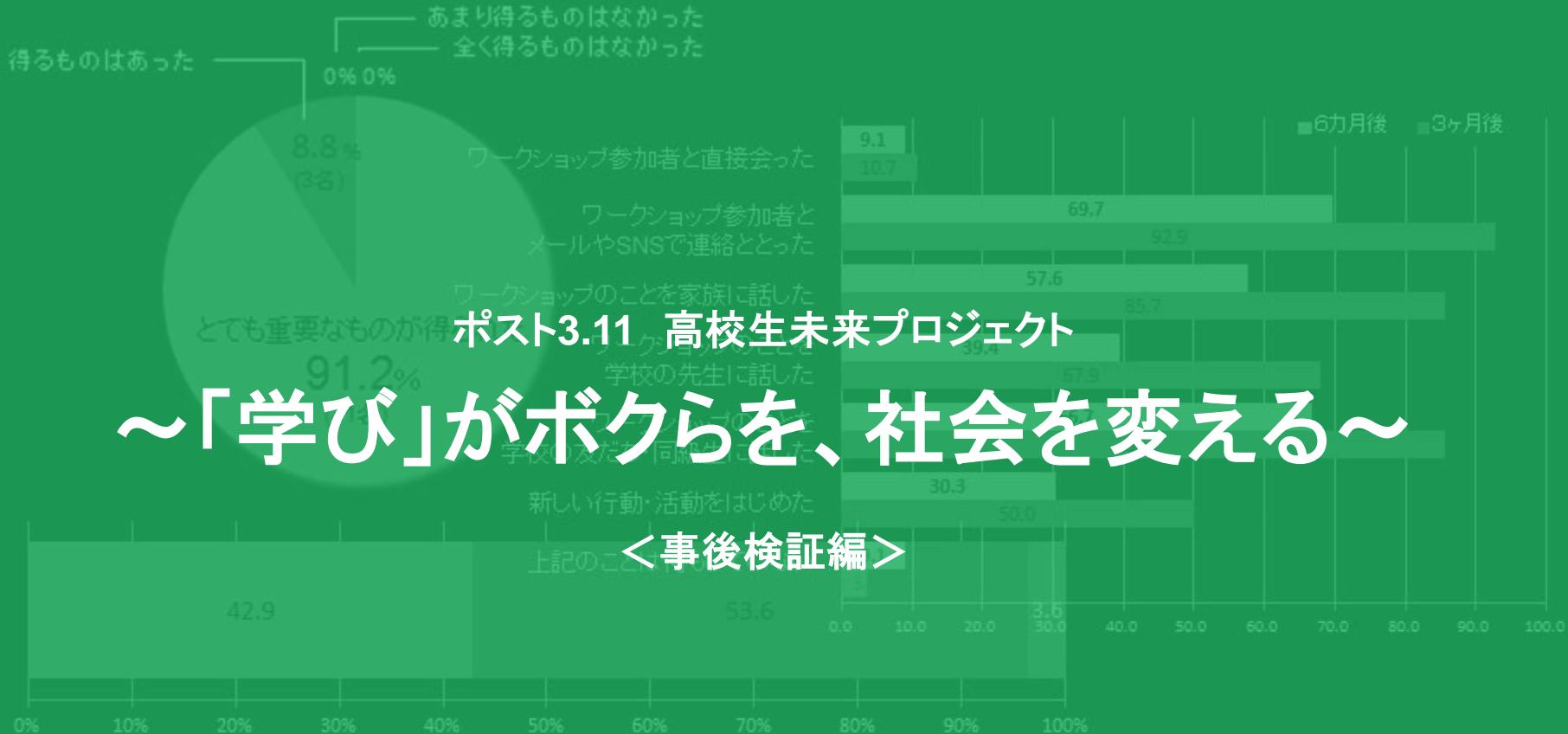


社会貢献やボランティア意識は、東日本大震災後に高まっている。

「とても」+「まああてはまる」の%

出典：ベネッセ教育研究開発センター「高校生と保護者の学習・進路に関する意識調査」(2011年9月 インターネット調査)

http://benesse.jp/berd/aboutus/katsudou/pdf/pre_27.pdf



～「学び」がボクらを、社会を変える～

＜事後検証編＞

Chapter_06 アンケート概要

Chapter_07 分析①生徒の生活・学習・勉強に影響はあったのか？(変容分析)

Chapter_08 分析②学びの意欲は持続したのか？(3ヶ月後、6ヶ月後比較)

Chapter_09 分析③男女で意欲・行動に差はあったのか？(男女別分析)

Chapter_10 荻谷先生のコメント

Chapter_11 最終総括

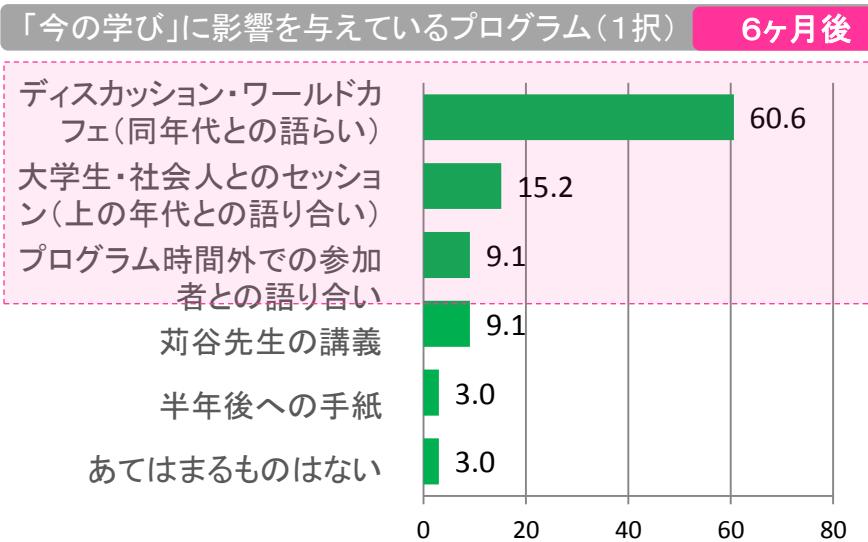
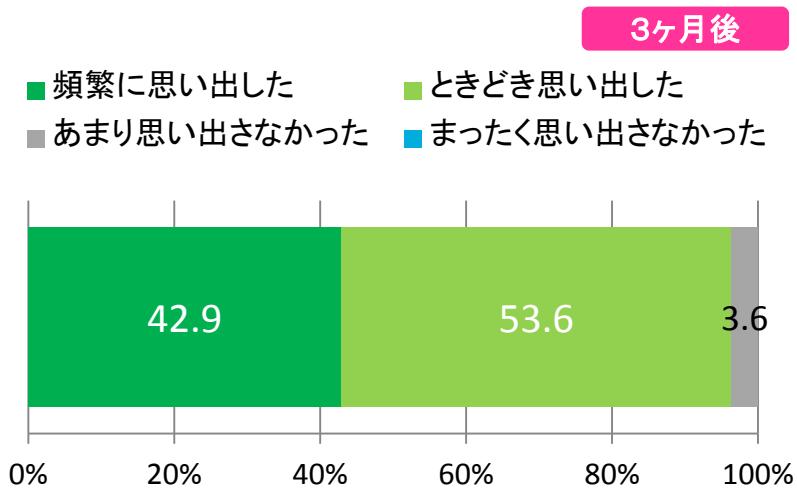
ワークショップの効果は持続したのか？ 3ヶ月後、6ヶ月後、2回のアンケートで検証。

ワークショップで高まった高校生たちの「学びの意欲」。それは修了後も持続しているのでしょうか？
約3ヶ月後の2013年3月末、約6ヶ月後の2013年6月末、アンケートで検証しました。

	3ヶ月後アンケート	6ヶ月後アンケート
時期	2013年3月末	2013年6月末
有効回答数	28／34 件	33／34 件
狙い	WS前後と同じ環境下(学年、クラスなど)における、WS後3ヶ月後の「学ぶ目的」「学ぶ意欲」の変化と、その背景要因をさぐる。 仮説 ・全体的には、目的があいまいに、意欲が減退しているのではないか？ ・そのなかで、意欲が維持・上昇しているのは誰か？	
質問項目	① この3ヶ月間／6ヶ月間の行動（「マナモク」「意欲」に関連するものを中心に） ⇒WSのことを思い出したか、誰かに話したか、メンバーと再会等したか…など。 ⇒参加者が集うFacebookページについて。非参加理由、意見・要望など。 ② 今の自分について ⇒「マナモク」「意欲」の変化(対WS直後) ③ 4月からの予定(コース選択、進学先など)【3ヶ月後アンケート】 ④ 今力を入れていること【6ヶ月後アンケート】 ⑤ 半年後の手紙について	
有効回答数 (34人中)	28 件 (高1:12人／高2:15人／高3:6人)	33 件 (高2:12人／高3:15人／大学生:6人)

ほとんどの参加者が「ワークショップのことを思い出した」 影響を与えてるのはプログラム内外での「語り合い」

Q) ワークショップが終わってから現在までの間、あなたはワークショップのことを思い出すことがどの程度ありましたか？



どのようなことを得たか、具体的に教えて下さい

- 三学期が始まってすぐに、友達が「勉強とか学校とかだるいわ。冬休み戻りたい～」みたいなことを言っていたとき、みんなとのディスカッションでの「『今』のコトは未来に繋がっているからやるんだ」という話が思い浮かんだ。そのおかげで、学年末まで気をひきしめ頑張ることができた。
- まずほとんどは参加のことだった。メールなどして、そのたびにその人たちの顔や言われたことを思い出した。あと、勉強が行き詰った時に、時々苅谷先生のお話を思い出すことなどもあった。ほかの参加者の目標など思い浮かべ、自分も頑張るようにした。
- 大学に進学するかどうか考えたときに、みんなと「学び」について話したことを思い出した

ワークショップで得られたことは、 ふだんの生活や学習・進路に対しても好影響を与え続けている。

Q)あなたがワークショップから得たことは、ワークショップ後から現在までの、
あなたのふだんの生活や学習・進路に対してどんな影響を与えたと思いますか。

6ヶ月後

夢・やりたいこと

- ・やりたいこと、夢を探すようになった。
- ・やりたいことを積極的に探そうという姿勢で生活をしていたため、やりたいことが増えてより勉強に取り組む意欲が増えました。

進路意識・将来展望

- ・大学に行くという進路の考え方を与えてくれた。

勉強・学習に対する考え方

- ・どの分野の知識も決して無駄ではないと改めて実感しています。
- ・受験に必要な教科に対しても、真面目に取り組むようになり、どんなことも、いつか自分のためになると思うようになった。

人との関係

- ・「こんな考え方もあるのか」「これは一理ある」という他人の意見の大切さを非常に理解した。
- ・ディスカッション、普段の会話の中で相手と自分の関係を意識して持つようになった。

自己意識

- ・今まで、自分が行う事に対していつも「正しいのか」「誰かのためになっているのか」「これでは駄目」と追い込み焦っていましたが、自分の出来る事(自分しかできないこと)をすることが社会貢献につながることを理解して、考え方や行動に余裕が生まれ始めました。

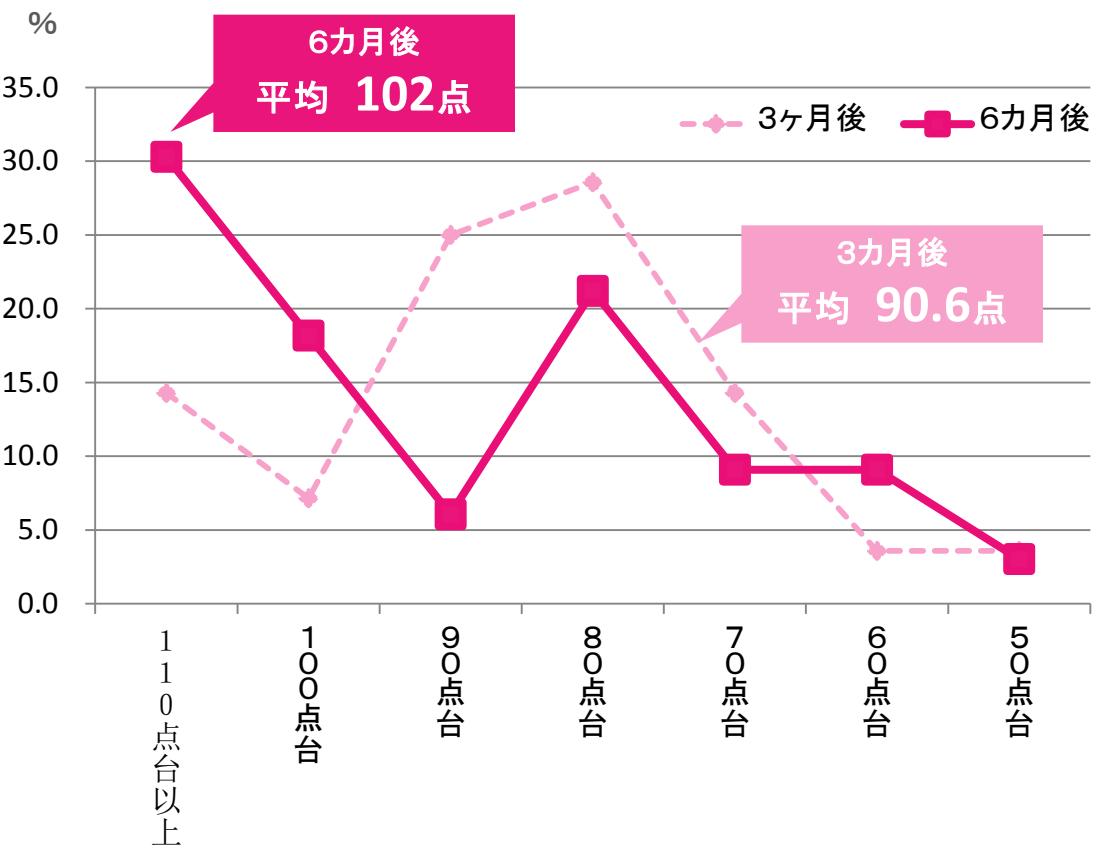
学校の勉強以外の行動

- ・勉強だけでなく、社会貢献について考え、身近なボランティア活動に取り組むようになった。
- ・短期留学にチャレンジしてみた。

学びに対する意欲はワークショップ修了後も、持続・向上。特に6ヶ月後、参加者の半数近くが終了直後よりも意欲が向上している。

Q) ワークショップ直後のあなたの学びに対する意欲を「100」とすると、現在のあなたの学びに対する意欲はいくつくらいになりますか？ だいたいで構いませんので数字でお答えください

3、6ヶ月後



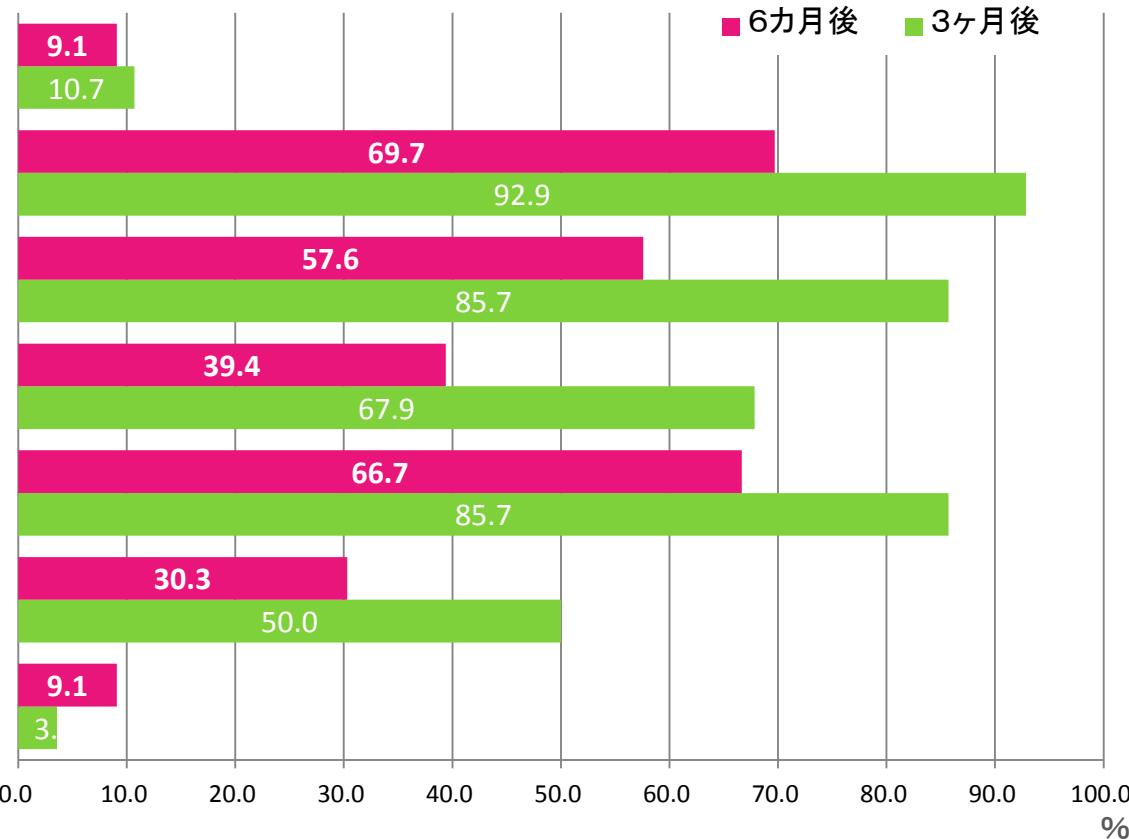
	3ヶ月後	6ヶ月後
300点	1	
170点	1	
150点	1	2
126点	1	
120点	1	6
110点		1
105点		1
100点	2	5
98点	1	1
95点		2
90点	7	
85点	1	1
83点	1	
80点	6	6
75点	1	2
70点	3	1
67点		1
60点	1	2
55点		1
50点	1	

ワークショップは行動変容も促した。 参加者同士の交流や、友達や先生に話すなどが高いスコア。

Q) ワークショップから3月(3ヶ月後アンケート)／4月から現在(6ヶ月後アンケート)までの間で、あなたは次のようなことをしましたか (複数回答)

3、6ヶ月後

ワークショップ参加者と直接会った



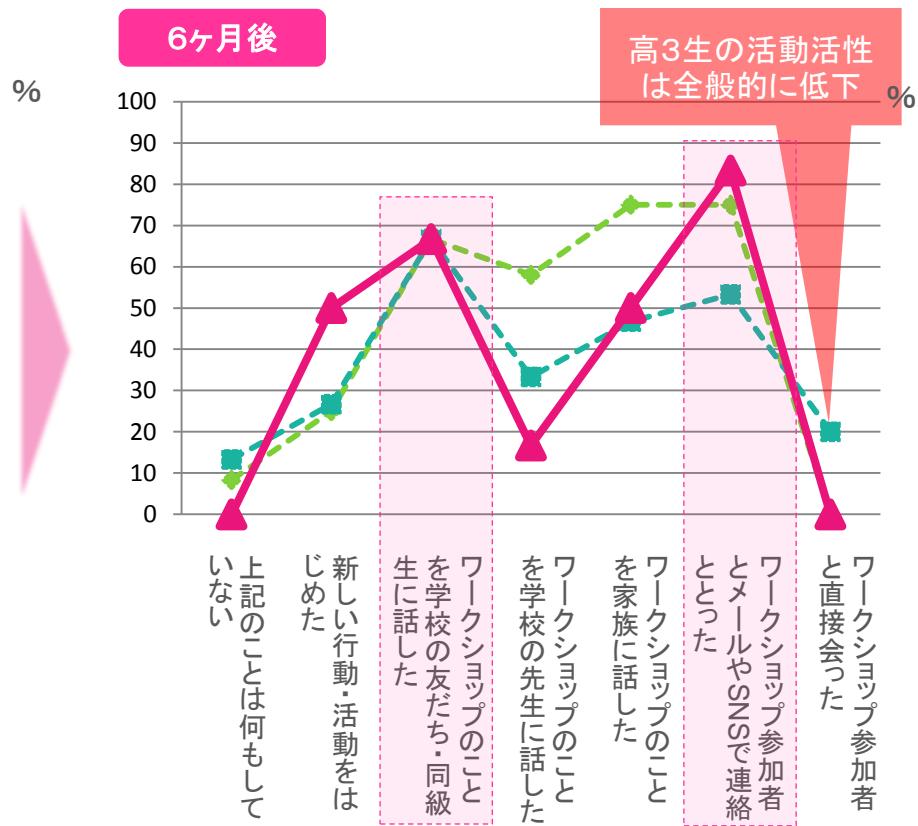
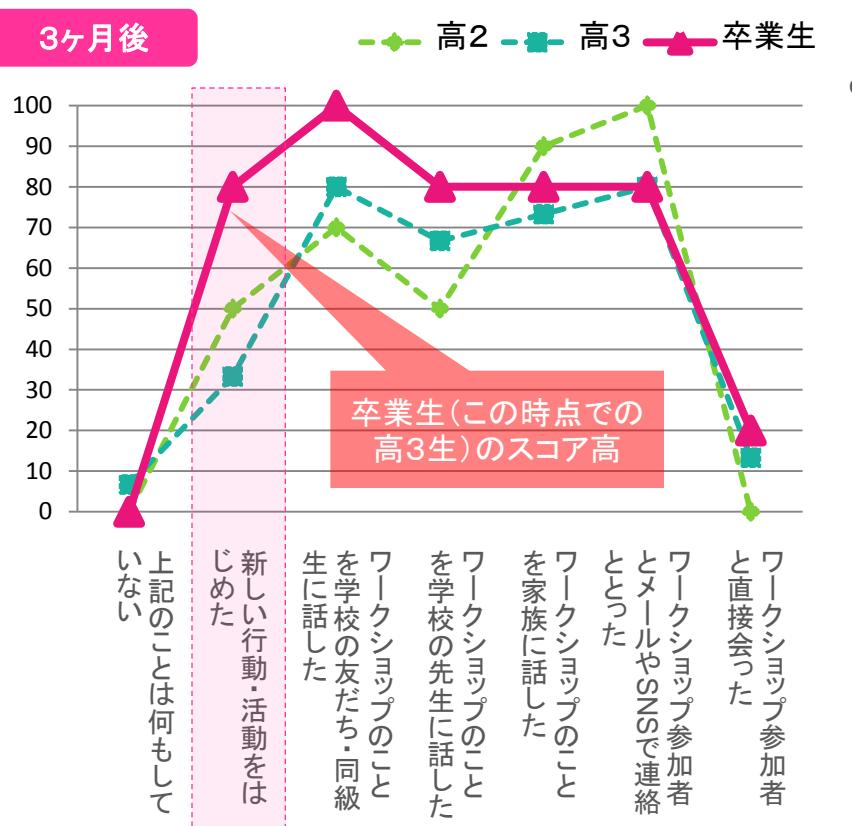
新しい行動・活動をはじめた

上記のことは何もしていない

6ヶ月後も、ワークショップのことを学校の友だちや同級生に話す参加者が65%。参加者同士で連絡を取り合っている生徒も半数を超えている。

Q) ワークショップから3月(3ヶ月後アンケート)／4月から現在(6ヶ月後アンケート)までの間で、あなたは次のようなことをしましたか (複数回答)

3、6ヶ月後



高2生: 「家族に話した」のは、3ヶ月後、6ヶ月後時点、いずれも最も高い

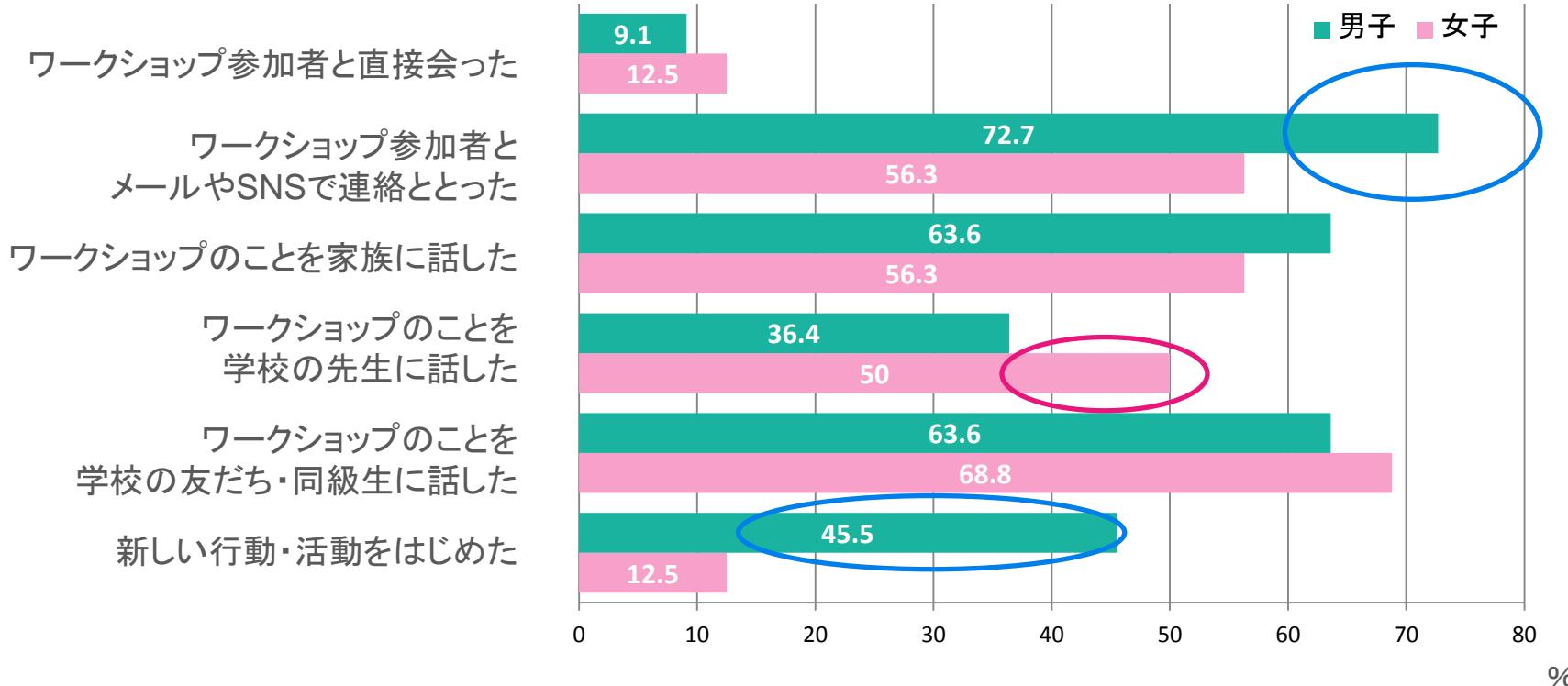
高3生: 全体的に行動を起こしている率が低い

卒業生: 「新しい行動・活動を始めた」は3ヶ月後、6ヶ月後ともに現役高校生よりかなり高い。

男女別では、「学校の先生に話す」は女子で多く、「WS参加者と連絡」「新しい行動」は男子で多い。

Q) 4月から現在(6ヶ月後アンケート)の間で、あなたは次のようなことをしましたか (複数回答)

6ヶ月後



「学ぶ目的」「勉強の意味」を、生徒たち自身がブレイクダウンし、表現する場としてのワークショップ

企画段階からご協力頂いた苅谷先生から、今回のワークショップの意義についてコメントをいただきました。

事務局:本ワークショップの意義とは何だったのでしょうか？

「学ぶ目的」「勉強の意味」という問い合わせ、生徒たち自身が具体的にブレイクダウン(分類して細かく分析)して考え、表現したこと。同時にそのような環境をベネッセが提供できたことが、一番の意義ではないでしょうか。



また、生徒たち自身から、問い合わせに答えるための言葉・語彙が引き出されていました。その語彙がなければ、抽象的な問い合わせを答える入口に立てなかった。ワークシートが様々なキーワードを関連付ける役割を果たしていました。同時に、語彙・知識の足りなさにも気付いていました。

このような一連の仕掛けが、生徒たちに、意識的に「知のブレイクダウン」という営みを促していたように思います。

事務局:このようなワークショップは、教師と生徒の関係にどのように貢献できるでしょうか？

自分でたてた「良き問い合わせ」を解決するために、問い合わせを加工し、ブレイクダウンしていくという作業そのものが、学問の営みそのものである、ということが伝われば、教師と生徒の間に『新しい「学びの作法」の経験』を提供できますね。

問い合わせを加工して新しい知として提供していく。大人が仕事としてやっていること、子供が学校で練習していることは、問い合わせを加工して具体的な考え方をみつけていくという、知的な作業なんです。

高校では、新しい課題に対する問題解決を行う仕事を 自ら作り出せる力を育てる指導が必要に

事務局：このワークショップは、生徒への進路指導という枠組みで認識されそうです。このワークショップが高校生の進路指導を変えるとしたら、どのような可能性があるのでしょうか。

今までの職業中心や志望大学・学部中心の進路指導から、新しい課題に対する問題解決に必要な職業を自分で作っていく、という指導の可能性が増えるのではないか。

例えば、今回のワークショップの中心となった「ファシリテーター」という仕事があります。そもそも近年までこのような職業は存在しなかった。新しい社会の課題を、新しいやり方で解こうとしているから、このような新しい職業が成り立っているのです。

「新しい仕事を作るにあたっては、知的なブレイクダウン（細分化・具体化）作業を行っている」ということを本人も周りも自覚した方がいいでしょう。

事務局：ワークショップを経験した生徒たちに対して、周囲の大人たちは何をすべきでしょう？

まずこのようなプログラムを受けたことによって、その子どもが変化している、ということを認識してあげることでしょう。大人たちは、まずその子どもが変容していることを認め、できれば「傾聴」してあげること。そしてその変容にことばを与えてあげること、が大切です。

子供たちが自分の中から発話し、言葉が出てくるような環境を継続して設定してあげることです。言葉にすることでつなぎとめておける気づきを、大人たちが傾聴し、言葉を与えてあげることですね。子供たちは、下手くそなりに知的な営みをしているんです。ネガティブもポジティブも混在した知的な営みをしている。そして何らかの意思決定をし、「仮決め」していく様子を、見守っていってあげてほしいと思います。

高校生未来プロジェクト(高校生同士が気楽にまじめなことを語らう場)は、学びの意欲の変容に効果がある。進路指導の新しい方法として可能性あり。

総括

- 「学ぶ意味」「勉強する目的」をテーマに、ファシリテータの指導のもと、高校生同士や、高校生と大学生・若い社会人・著名な学者が語り合う、「内省」を経て気づきへと至る手法は、**高校生本人の学ぶ意欲の変容に効果あり。重要な学びの場になる可能性がある。**
- 学ぶ意欲の「継続」に、本人が**半年後の自分に宛てて出す手紙(半年後への手紙)**、および受講生同士の交流は有効。SNS活用などより優れたコミュニケーション手法の開発が望まれる。

半年後の手紙
をもらった感想

- ・まるで私のことをよく理解してくれている友達がくれた手紙のようで、心に響きました。そこには、ありのままの自分の気持ちが書かれていて、励まされてしまいました。
- ・自分に奨励されるという機会は今まであまりありませんでしたので、驚きと感動を手紙とともに受け取りました。

課題

- 生徒達に、まじめなことを語る機会の「本質的な欲求」がある。
→**生徒達と一緒にになって、いかにこのような機会を普及していくかを考えたい。**
- 生徒達の知識のなさ。
→**「知識がないと対話が深まらない」このことを子どもに気付かせる場・機会が必要。**
- 学ぶ意味や目的を語ることなく、自分たちの行っている意思決定が、知的な作業・ブレイクダウンであることを認識しないまま、学校生活・日常空間が成り立ってしまっている高校生の現状。
→**本ワークショップで克服していくべき。**
→**2013年度に学校現場への直接導入を試験的に実施。可能性を追求していきます。**

今後の高校生未来プロジェクトは 「生徒の日常空間＝学校内」での実施の可能性を追求していきます。

高校生未来PJ 今後の展開

2011年3月
第1回ワークショップ
「10年後への決意」

2012年12月
第2回ワークショップ
「学びがボクらを、社会を変える」

2013年10月
最終報告書
とりまとめ

2013年度
以降
学校単位での
実施の可能性
を模索。
実験協力校で
の実施を通じ
て、効果研究・
持続可能性を
検証します。

2011年度に始まった、子どもの学ぶ意
欲を、対話で高める試みは、今年で3年
目を迎えました。2年かけて丁寧に仮説
を検証してきたことにより、成果をこうし
て発表することができました。

ワークショップが終わって3ヶ月、半年
経った後でも、生徒にとっての学ぶ意欲
がほとんど落ちていないことは、本プロ
ジェクトの事務局として大きな勇気となり
ました。

今回、成果をVIEW誌上で発表したこと
をきっかけに、全国の高校の先生方から、
学校でやってみたいという連絡をいただ
いています。今後はこのような対話の場
が、実際の学校現場でどのように効果が
あるのかを、引き続き報告していきたい
とおもいます。

高校生未来プロジェクト